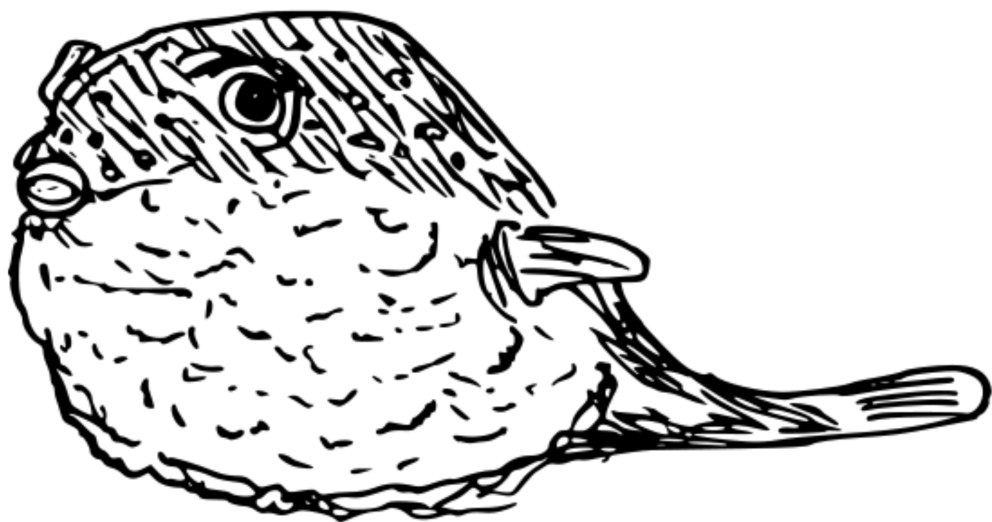


odai

magazine



手引き

vol.17

TRIMING
KURIHARA OSAMU



おじいさんと雨

長谷川 至洋

夏のあつい一日の終わりに、夕立がありました。

クリーム色みたいなオレンジジュースに牛乳を混ぜたみたいな、暗くて明るい変な色をした空からザーッザーッって雨がふってきます。

おじいさんは駅にいるから濡れません。

ホームの端で空を見上げていたらちよつと濡れました。

雨はすこしなめに降っているからです。

おじいさんは杖をつきながら、雨がやむまでの長いような短いような時間をホームの端で空を見上げて過ごしました。

ちよつと濡れてもすぐに乾くけど、この日の変な色の空はこの日しか見られないからたくさん空を見上げました。

やがて雨はあがり、濡れた電車が来て、おじいさんは電車に乗っていききました。

濡れた電車は、走って体を乾かします。

空はもういつもみたいな色をしていたけど、きれいなままでした。

この冊子はいろいろな人にいろいろなことを書き寄せて貰ってできています。それほど長くない文章なので、ちよつと一駅くらいの移動の際にもお楽しみいただけます。

せっかく手に取っていただいたのですから、どこかしら、なにかしら手引きとなりますよう。

おだいにまつわるエトセトラ

小台という場所の断片的なイメージから小台をイメージするためのコーナーです

隅田川には大きい花火の小さいかけらがどんどん落ちるので光の粒が漂流して夕方は空より水が明るい。橋の脚は地面に埋まっているのに川はそれより低いので私の足が踏む橋の表面のさらに上方のアーチに天井がかかっているように跳べば空に頭を打ちそう。暗くなるとそう思っている。いつの間にか水の上の光も休んでいる。

中村 優子

『オランダの光』という映画がある。

オランダ絵画史が、フェルメールやレンブラントといった光の質感操作に長けた画家を多く生み出したのは、その地に降り注ぐ太陽光の特殊性にあるのではないか、という仮説を、美術のみならず気象的、地理的観点からも実証していくドキュメンタリーである。

小台をパトリールしていて、この映画のことを思い出した。太陽の光が、その色と肌ざわりが、東京の他の街とは、明らかに違うのである。

試しに、晴れた日に田端新町から小台通りをずっと北進して、小台橋を渡ってみてほしい。橋の中程から、景色が微妙に黄色がかって見えるはずだ。そして、空気が妙に丸っこく感じられるはずだ。

小台を挟む二つの川の照り返しや低層建築街ゆえの光量の多さなど、理由はいろいろあるだろうが、要するに、小台は東京のオランダなのである。

そして、その東京のオランダの光の中で、100円ローソン帰りの爺イが、今日も豪快に痰を吐いていたりする。

山下 哲史

小台湯の跡地が「ODAI YOU」って名前のアパートになりましたね。

玉坂 めぐる

先日、所用があって小台に行ったら、これが実に楽しかった。

楽しい条件がいくつかある。まず「都電に乗れる」「橋を渡れる」「カフェでコーヒーが飲める」「コミュニティバスに乗れる」

この四つが重なって、まるで東京の中の異界に紛

れ込むプチ旅行であった。特に橋を渡るときに私の舞踏の魂は萌えた。橋は人間のドラマごころをくすぐるのだ。そしてバスは遊覧船のように街を滑って行ったのだった。おしゃれではない不思議な街、小台であった。

最上 和子

川と言えば大阪中之島、金沢の犀川、京都の鴨川だった私にこの春新たに小台・隅田川というワードが追加されました。初めて訪れて何も知らないまま小台橋から観覧車をぼんやり眺めたとき「ひょっとしてここには、私の知らない面白い何かがあるのかもしれない！」って気がしてきました。不思議です。

坂本 優子

小台のこと、考えています。

都電に乗るのが好きです。小台に着くと、ちょっとドキドキします。あと、少し、しんみりします。どうだい？と問われたら、おだやかになりたいです。自分の住んでる町はオダサガなので、オダマガとも韻をふndです。

お題がわからなくなってきました。

鈴木 良典

Always fresh life hack !!!



イラスト・文

DJ 半額

「機内食はまずい」なんて、野暮なことを言わないで欲しいよね、と思います。あのコンバクトさ。システマティックなかんじ。非日常感。飛行機の中でしか食べられない。陸上では味わえないたべもの。配膳されたメニューの中で楽しむ喜び。配られたカードで勝負する。与えられた条件の中でやるのです。遵法闘争。ライフハックについて書く、というのを忘れていました。本文は、機内食で出されたバターについてのライフハックです。陸上の食事でも、バターでこまったことはないでしょうか。バターは固い。固いと、うまくひろげられない。パンにぬりにくい。無理にぬろうとして、パンがつぶれてしまうことだってある。陸上で固いバターは、空の上でも固いです。結論からお伝えします。メインディッシュが提供された時点で、バターを下にもぐりこませるのです。機内食ではメインディッシュが、熱い状態で提供されます。厚手のアルミホイルにくるまれて置かれますね、チキンかビーフかフィッシュかベジタブル。ガスコンロも電子レンジもトースターもない、飛行機の座席にくくりつけられた状態で利用できる唯一の熱源です。熱々のアルミホイルの下にバターをすべりこませたら、その間に準備を済ませましょう。ビニール袋を開けて、スプーンやフォークをトレイに配置。saltとpepperの袋を破って、小さいサラダにふりかけようか、サラダに全部かけようか、全部かけたらしょっぱいから肉にかけようか、メインディッシュのソースにかき混ぜて濃い目のソースにしてパンにつけてたべようか、手のひらに塩をのせてペロツとなめてそれを肴にビールをひとくち、くだものに塩かけた方がいいよね、と戦略を練るうちに、アッ！そうだ！パンにぬるバターがちょうどいいくらいに溶けている頃合です。

余談ですが、以前「もう一丁もってきちゃって！」と、機内食のおかわりをお願いしている欧米の人を見たことがあります、いつか私もやってみたいです。

半島と橋とZINEと

モリナヲ弥

ぼくが住む神奈川・三浦半島は品川から京浜急行で45分ほどにある、東西を東京湾と相模湾に挟まれたこぢんまりとした半島です。

荒川と隅田川に挟まれた小台の地形と近しいものを感じます。横須賀を擁する土地ゆえ軍港のイメージが強いですが、大楠山や小網代の森といった深い緑のほか、海岸沿いに目を向ければ天神島や城ヶ島、猿島など小島が点在しています。地元の野菜も魚も美味しい。観光面では「永遠のライバル」こと逗子や鎌倉に劣る三浦半島ですが、豊かな自然が色濃く残る土地なのです。

身近な橋といえば、夕照橋でしょうか。金沢八景駅前に広がる平潟湾の上をぐっと太い線を引きたくように架かる姿が美しい橋です。「夕日」「照らす」「橋」というネーミングも好き。しかしここ三浦半島において橋の存在感は

いささか稀薄です。荒川や隅田川のような川がないのでデーンと腰を据えた大きな橋は少なく、小川を渡る程度の道路とほぼ同化したような小さな橋がばつばつとある程度。ゆえに、30年ほど海辺で暮らす身としては大量の水がどぼどぼと目の前を流れゆく荒川隅田川はそれだけで非日常であり、缶ビール片手に水面を眺めるだけで何時間でも過ごせます（韓国で見た漢江はスケール感のデカさに腰を抜かしました）。

そんなぼくは2年前から半島の片隅でZINE Eを作り始めました。題材は三浦半島の自然や博物、民俗。ニッチなテーマのせいで読む人は限られますが、有難いことに身近で応援してくれる方々のおかげで、小部数ながら細々と制作を続けています。

それはいささかありふれた比喩である。という誹りを承知のうえで断言するなら、本は作り手と読者のあいだに架かる橋といえます。対岸との距離を読み違え開通が遅れたり、完成したものの思ったより利用する人が少なかったり、毎回、試行錯誤が続くぼくの橋作

りです。浅学非才ゆえ苦労は絶えません。しかし対岸から思い掛けない来訪者が訪れたり、架けた橋の先が別の橋に繋がっていたりと、様々な出会いや創作に繋がる面白さがぼくの橋作り。もとい、ZINE作りの源泉となっています。

個人のリトルプレスです、清砂大橋や勝どき橋のように大きな橋は架けられません。それでも、人と人のささやかな出会いを繋げる、三浦半島の日常生活に根差した小さな橋をコツコツと架け続けられればと思っています。さて、そろそろ散歩の時間です。今日は近所の小さな橋を訪ね、名を覚えることから始めます。



海洋博物系ZINE E
キュウセン
三浦半島を中心に、浜辺の伝承や古い日本人の自然観についてまとめた一冊です。
鎌倉のブックスモブロさん他にて販売中。

Poco lento

舟を漕ぐ

2012.4.17

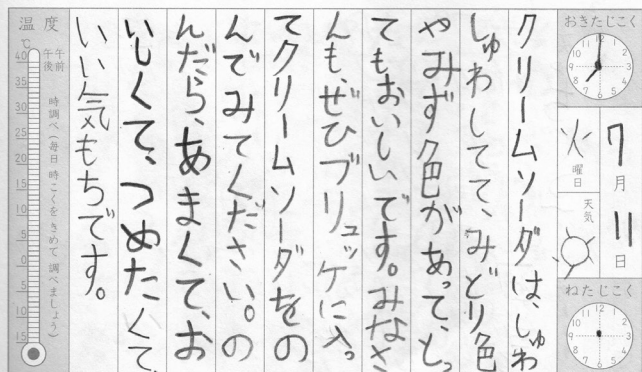
Para Guitarra

舟を漕ぐ

うとうとし、身体を揺らしている様を舟を漕ぐと呼ぶ。その表現が気に入って、音楽に映した。こっくりと揺れる動きを前半に、後半は、その揺れている人物の夢と現の狭間の風景を書いた。一音一音をしっかり響かせ、静かな波を描くような、緩やかな演奏が望ましい。

斉藤 友秋

鈴木レゼはるひ



様式美

人間が操作せずにロボット自身がサッカー競技を行い、その勝敗を世界各国のロボット研究者が競い合う競技会。

1997年の第1回開催から20年経過した今年2017年の開催地が久しぶりに日本（名古屋）という情報を聞きつけたので、ロボットの技術進化つづりを観戦しに名古屋まで行ってきた。

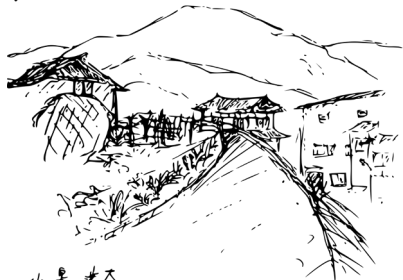
継続は力なり、とは良く言ったもので、20年の間に、競技の種類も多様化しており、サッカー、競技だけでも、車輪型ロボットの小型リーグ、中型リーグ、そして、人間型の2足歩行ロボットリーグ（ハードウェアが共通のリーグと独自ハードウェア（小型、大型）の3種類）と5種類の競技リーグがある。

更にサッカー競技以外にも、災害救助環境を想定したレスキューリーグや一般家庭環境を想定した@ホームリーグ、工場や倉庫などの物流環境を想定したインダストリーリーグ、そして、世界最大のECサイト、amazon が主催するAmazon Robotics Challenge(色々な形状の物体を掴んで箱に収納するスキルを競う)、と盛り沢山なイベントと化しており、現在のロボット技術を俯瞰するには打ってつけである。

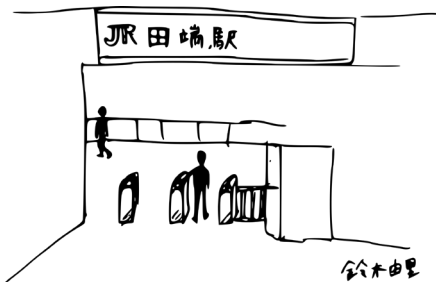
イラストコーナー

みんなが今行きたいところです。
夏休みに行ってみたいですね。

長野県 下内群 学村



小泉 光太

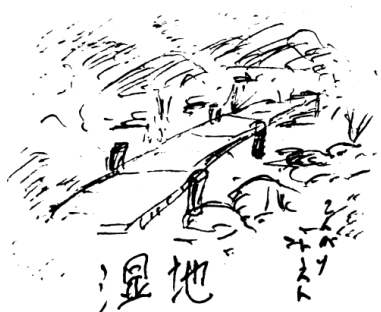


鈴木由里

山田 翠茶店

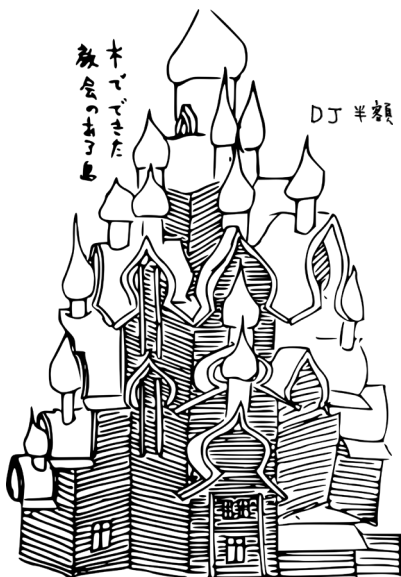


あがはし かし



湿地

本でできた
教会のあつち

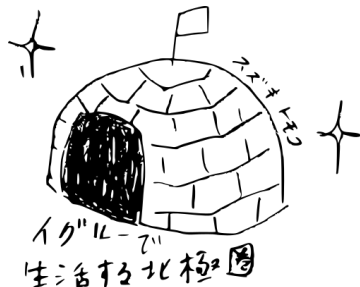


DJ 半蔵



多島海

小瀬古 智之



イグルーで
生活する北極圏

ストロー

こんがりトースト

「なんで熱くなるのかこんがりトースト論」

① 大きさと厚み

同じ自販機で買ったのに、ホットの缶コーヒーに比べて缶ココアの方が「ぬるく」感じます。熱は分子の動きによって上昇するらしいので、狭い方が高温になりやすいです。厚みもそうで、マグカップで飲むよりも薄いティーカップで飲む方が熱く感じます。おそらく唇の触覚と温度を感じる神経がリンクしているから。つまり狭く薄くなるほど熱く感じるということ、その最たるものがストロー。

② 高さ

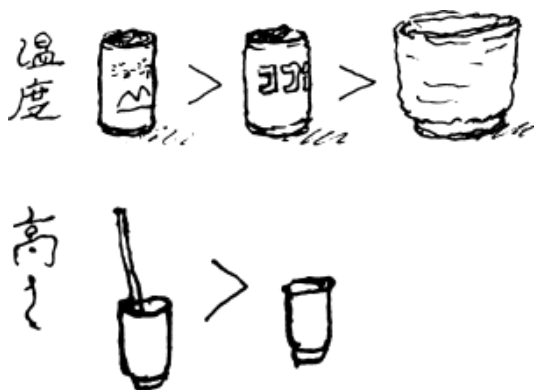
熱は上へと向かいます。ストローで吸うことで、飲み物の高さがさらに上がり、それに比例して中の温度差も広がります。なのでふつうに飲むときよりも、コップの底は冷たくなっているはず。

③ 気構え

ふだんストローを使って飲むとき、その飲み物は大抵冷たいです。それをくり返していると、ストローをくわえただけで脳が「冷たいのが来る！」と構えて、脳の早とちりをする。予想の温度と実際の温度とのギャップに、口の中がびっくりする。

④ ①②③が少しずつ作用してストローを熱くしている。

いや、すっかりした。



熱いお茶をストローで飲む。あれってびっくりするほど熱くなるのですが、なんで熱くなるか、そのメカニズムまではあんまり知られてないんですよね。

なんでこんな話を始めたかというと、この間、バイトの先輩とちょうどその話題になったからなのです。先輩が語る、なんで熱くなるのかの理由が、ネットで調べたらいいんですが、「ふつうにお茶を飲むときは、スズスーって周りの空気も一緒に吸って、お茶を冷やししながら飲んでいて、ストローだとそれができないから熱い。」というものでした。一理あるとは思いますが。だけど証拠がない。スズスーの時にどれだけ温度が下がるか調べようがないですからね。

実は僕には自分なりに考えた完璧、かつロマンチックなメカニズムがありました。しかし、先輩「俺のが正しいやつだ」と言って、ちゃんと聞いて貰えなかったのです。かなり悔しかったので、今回この場を借りて僕の理論を発表させていただきます。

音も立てずに

杉浦俊介

自転車で盆踊りに向かっていた。もうすぐ会場というあたりで事故は起こった。事故、と言っていいだろうか。左足を何度も地面に叩きつけ止まり、「痛ってえ。」と思いつつ即座に自転車に乗り直して会場まで漕ぎ直す。

神社の臨時駐輪場に自転車車を停め、歩きだす
 ともの凄い痛みでとても歩けない。途中で座
 り、痛みが引くのを待った。暑さのせいと言
 うよりは冷や汗でかくかくとしていた。

痛む足を引きずって櫓の方に行ってみるものの、悪寒が走ってなんだか気持ち悪くなってさっきの所に戻る。踊りに来たのに動けない。そのまわりを子どもたちが動き回る。足に当たられたらひとまりもないと、腫れあがつた左足を守りながらうづくまっていた。

この日、盆踊りがあると声をかけていた方たちに助けられた。近くの魚屋で氷を調達して貰ったり、屋台でケバブやポテトを買ってきて貰ったり、とにかく迷惑ばかりかけてしまった。

そうして盆踊りは終わり、



ろくにお礼もできないまま解散。病院に行きた方がいいということでの親の助けを借りた。こんな時、どうやって病院を探していいかわからなかったが、家の近くの病院があいていた。電話で状況を説明し、到着してすぐに車椅子に載せられレントゲン室へ。

折れていないことの確認で来たのに、誰が見てもわかる程度の骨折。

そして、はじめて入院・手術することに。

翌日、別の病院を紹介され、そこで診察。中指一本と想っていたのに折れていたのは親指と小指以外だった。準備もないから諸々の説明を受けて入院は更に次の日にしてもらった。

大部屋に入った。残念ながら海が見えるような病室ではない。ベッドに荷物を置いただけでは旅行気分は味わえない、と言って売店に行つて飲み物とじゃがりこを買つた。少し旅行に來たような雰囲気を感じた。

担当の先生方が色々説明に来て説明をする度

に手術は不安になる。

大部屋は非常に人間が近い。近いと言っても話すわけでもないし最近の仕様のなか基本カーテンが閉まっているが、患者と看護師や医師の問答などが筒抜けだ。初日は朝から「脱走させてくれ」と言っていた向かいの男性が医師たちと19時頃に押し問答をした数分後に逃走した。数分後に覗きに来た看護師はと焦っていた。

夜中、隣の男性が苦しうにしている。それでも時々咳き込んで吐いているような感じがあつたが、今回は止まらない。と声をかけてみる。

「大丈夫ですか？看護師さん呼んだ方がいいんじゃないですか？」

と言うと、咳混じりの弱々しい声で

「ああ、はい。呼んじやいましょうか。」

と応えてナースコールを押してくれた。状況を説明して、最終的に「苦しい」状態だとい

うことまで伝えてはじめて
対処がされる。酸素値が相
当悪くなっていたらしく、
すぐに呼吸マスクをされて
いるようだった。病院のルー
ルを理解しないと手当を受
けられないことが分かった。
この日は4時頃まで携帯で

まんがを読んでいた。

二日目、手術のため断食。

10時から点滴を。脱走した向かいのベッドには新しい人が入所してきた。トイレを済ませたりして、13時に手術室に入った。何かで見たようなライトを見上げて点滴に麻酔を入られた五秒後から記憶がない。意識が戻った頃には4時間が経過していて、家族とも話したはずだけど、ほぼ何も覚えていない。帰った後で姉から術後のサイボーグみたいな足のX線写真が送られてきた。1時間くらいして段々と全身麻酔がとけてきていたが、足はまだ感覚もないし動かせなかった。

その後にお見舞い客。だいぶ回復した気分だったものの、傍目からはだいぶ弱っていたらしい。カルシウム豊富な御見舞をいただいたものの、この日は水も飲めない。ぼんやり寝たり起きたりを繰り返しながら、ひたすらまんがを読む。携帯を充電器に繋ぐのもこの体ではひと苦労だった。手術のことは何も覚えてないし、起きたら尿道に何か埋められているし、どこかで聞いたような話で、「宇宙人に拐われるというのはこういう感じか。」と思うのと同時に、「宇宙人に記憶消されてるんじゃない



なくて、単に全身麻酔かけられてるだけだな。」みたいなことを思ったりした。

この日の夜は昨夜のような騒がしさはなかったが、夜が深まるに連れて隣の長浜さんが気になる。案の定、3時頃に咳が少しひどくなってくる。心電図的なものを付けたのか、エラー音みたいなのも鳴りつづける。何のための音なんだろうと思うてたら看護師が来た。特に何事もなかったかのように音を止めるだけだからいったい何なのかはわからないままマンガを読んでいた。

この頃になると足の感覚は完全に戻っている。縫合した後の切り傷が痛い。骨折よりもこういった鋭い痛みの方が苦手だ。痛みはピークなのにまだ薬は飲めない。それに加えて普段猫背なせいとか、腰がどうにも辛い。

ろくに寝ることもなく翌朝。朝食が出るというところで点滴が外れた。数日で退院と言われ

ていた気がするが、いつ退院するのかよくわからない雰囲気の中、1日ぶりの食事を摂ると先生が来た。

「痛みはある？触られている感覚はある？大丈夫そうならもう退院しちゃってもいいですよ。」

と言われたから退院を希望して患者モードから気分が切り替わった。少しすると処置をする人たちがぞろぞろ入って来て包帯が取られる。術後はじめてみる足は、ブラックジャックのようだった。

こうして、2泊3日の入院生活が終わり、今は松葉杖で生活している。店にも立つものの、ほぼ何も出来ないくせに体力だけは使うようですぐ疲れるから困ったものだ。当然旅行にも行けずお盆休みが空いてしまった。

当たり前と思っていたことは、音も立てず一瞬で変わるというのをこの歳で実感した。もう何かに急ぐような年でもないし、これからはなるべく慎重な生活を心がけたい。そして、骨がついた頃に足に埋められた金属の摘出手術が待ち受けるその時まで猫背もおしっておきたい。ヨガでいけるだろうか。

足立区小台とはかわりのない4月の俳句

一生の楽しきころのソーダ水

中村安伸

炭酸水に甘味と色をつけたソーダ水は、清涼飲料水のうちでもとくに涼やかなものだが、そのぶん強い刺激もある。これを愛好するのは老人よりはやはり若者ということになるだろう。

「一生の楽しきころ」というフレーズをそのままに受け取れば、老境に差し掛かった作中主体（俳句作品中の主人公であり観察者、一般的に作者と同一視される。）が、自らの来し方を振り返りつつ「楽しきころ」へ思いを馳せている、つまり若い頃に飲んだソーダ水の味を思い出す老人の句、という解釈が常道なのかもしれない。

しかし「一生の楽しきころ」というフレーズは、自分自身を振り返るものとしてはあまりにもあつさりとしていて、客観的すぎるような気もする。そこで第二の解釈として、喫茶店などでソーダ水を楽しむ若者を、すこし離れた席からあたたく見守りつつ、皮肉混じりに「一生の楽しきころ」を生きているのだなあ、などという感慨を述べたと読むことも可能だ。そして、私には後者の解釈のほうがしっくりくるのであるが、それは私自身がまだ「楽しきころ」のただ中にいるという感覚から抜け切れていないからなのかもしれない。

ところで、十年ほど前某出版社から図鑑のような大型の俳句歳時記が刊行されたのだが、初版にはこの句が「一生の楽しきころ（ね）ソーダ水」として掲載されていたのである。その誤植を見つけて以来、ソーダ水を飲んでるのは女子学生であるというイメージが脳裏にこびりついてしまった。

また、同じ作者に「退屈なガソリンガール柳の芽」という句があつて、ガソリンガールの句に描かれた鬱然とした仕事上の少女と、談笑しながらソーダ水を飲む少女とは、なぜか同一人物のようにも思えるのである。若いことと楽しいことはもちろんイコールではない。

ちなみに「ガソリンガール」という語は現代において完全に死語であるし「ソーダ水」もそのままの形で使われることは少ない。現代風俗をあらわす語は風化がはやいので、俳句には使わないほうが良いと言われることもあるが、これらの句の場合、日常的に使用されなくなったかつての風俗語が、時代を経てレトロな雰囲気を感じさせるようになり、かえって句の魅力を増すようになったと思う。

作者は富安風生（1885年4月16日 - 1979年2月22日）

128段の階段のうた 12段目

長谷川 至洋

8月は夢花火だという。

それはこういうことなんだと思う。

暦の上では8月はもうほとんど秋なんだ。

けれども8月は永遠の夏休みなんだ。

ありもしない幻の夏は8月にしかない。

蝉の音はうるさくないのにバイクの音はうるさくて困ったものだと言ったのも8月の夜のことだ。



おだいのわたし (15)

ホーチミンの花と鳥

中村安伸

先日、ホーチミン市に数日間滞在した。まず訪れたのは洋服のオーダーメイドを扱うテラーである。以前ホイアンでシャツを作ってもらったとき、テラーに用意されていた生地がいまひとつだったので、今回は事前に日暮里で購入した生地を持ち込んでみた。そして、手持ちのシャツを見本として渡し、コピーしてもらうことにした。翌日夕方には出来上がっていたが、納期は注文の込み具合などに左右されるようである。仕上がりにつきし雑な面もあったが、納期、価格を考えると満足と言える。日暮里で生地を買い、ベトナムで仕立ててもらおうというコースは今後リピートしてしまうかもしれない。

ホテルから車で20分くらいの高級住宅街にある現代美術のギャラリーに、ベトナムの若いアーティストの作品が多く展示されており、そのなかで、ある女性画家の作品に強く惹かれた。仏画のようなやわらかなタッチで布に描かれた人物画は、身体が裂けてその裂け目から別の身体が出てきていたり、手を握り合う二人の人物の溶融した顔がつながっていたりという非常にグロテスクなモチーフが、シンプルかつふくよかな描線と不思議なミス

マッチを呈していた。

ギャラリーの近くのThe Deckというレストランは、フロアが川床のようにサイゴン川へせり出しており、雨季で増水していたためか、水草や、時にはゴミが足もとをかすめるように流れていく。当然臭いもあって、食事にふさわしい場所かどうかは微妙だが、すばらしい開放感があった。テンプルには蓮の蕾が飾られていた。

大通公園の小型版のようなグエンフエ通りに面した、レペリーサイゴンはラスベガスのベラッジオを思わせる悪趣味すれすれのゴージャスな内装が特徴である。ティールームには、大きな花器に球体のように深紅の薔薇が盛り付けられていた。

カンカサというドンコイ通り沿いのティールームは、壁一面に観葉植物を茂らせ、白く塗られた木に色とりどりの鳥の模様が飾られ、天井にもたくさんさんの鳥が描かれていた。鳥や鳥かご、花などのモチーフは街のいたるところで目にした。

「O ショー」という、アクロバットとダンスでベトナムの伝統文化を表現したショーは、衣装や道具などが意外なほどに洗練されていて楽しめた。会場はバリのオペラガルニエに似せたという市民劇場である。ショーの冒頭にはさまざまな鳥の声が会場に流された。

甥っ子とわたし

杉浦俊介

幼稚園に通うようになり、はなす言葉も増えてきた。久しぶりに彼が習っているサッカーを見に行った。自分の思い通りにならないとすぐに泣く。自分にもそんなことがあっただろうか。少なくとも負けず嫌いであることは何かを突き詰めるには良いことだと思うけど、泣きながら続行するわけでもないから少し心配になる。

こないだ、有名店のかき氷を食べる一貫で、十条と一緒にいった。いちごを食べたがっていたが、運悪く売り切れで桃にした。後からそんなに桃が好きじゃないことを知って、悪いことをした気になったものの、あまり好きじゃないものを克服したのであればそれはそれでよかった。かき氷2杯でふくびき券を買い、引くと百円券が当たったから文房具屋でドラえもん折り紙を買った。おばちゃんがテープを貼ると、「テープ下手!」と店のおばちゃんに貼り直させる。そんな発言にも笑いが伴うから不思議なものだ。

今度はどこに連れて行ってみようか。

橋の渡りかた

暑い時期が訪れたら、いつ雨がふるかわからないので傘を持ち歩きましょう。

日傘にも使えるといいですね。

加工食品を口にした時には、どういった人が作ってとかその源泉をイメージしてみましょう。

1時間は潰せるでしょう。

なんだか体がいつもの調子と違ったり感じたら、お医者さんに診てもらいましょう。

何か悪いものがみつかるかも。

できるだけ写真を撮って残しておいてみましょう。

老後の楽しみや、何かの手がかりとなるかもしれません。

花火をするときは風上にいくようにしましょう。

火薬の匂いのする煙を吸っているとお腹を壊してしまうかも。

普段使い慣れていてもいつも扱いには注意しましょう。

思わぬ事故に繋がるかもしれないし、過度な自信は命取り。

蚊が嫌な音をだすときには蚊取り線香を焚きましょう。

蚊を退治してくれるとともに、日本の夏を演出してくれます。

ふと言葉が口をついて出てきたら、書き留めてみて、そこにメモデをつけてみましょう。

そこから歌がはじまります。

人との連絡を少しとらないようにしてみましょう。

実際にはそんなに連絡を取る必要もないのだとわかります。

大きい街よりも、小さい町に目を向けてみましょう。

知らなかった面白いのがみつかるかもしれませんね。

橋のたもとから

はじめてこの冊子を手にする方はいったいなんなんだろうと思
いながらここまで読み進められたかもしれません。ここまで来
ているといいのですが。この冊子は、小台という土地の小台橋
のたもとという程ではないですが、橋の近くにあるブリュッケ
という店の現在足を骨折している店主が作っています。

冊子の始めの方に書いている通りなので店を宣伝するための冊
子ではないのですが、店のことを少し書きます。

この店はコーヒー屋です。トーストとかケーキとか（今はかき
氷がでるのでケーキは休んでいます。）ちょっとしたものがあ
りますが、コーヒーの店です。気軽にコーヒーを飲みに来て、ふ
いに何かに出会うような場所になつたらいいと思ってます。

店では何かと催しを催したりしますので、もし興味があるもの
があればご参加ください。休日の朝はたまに中国語や、ヨガや、
なんかできそうなものがあれば。ギター教室も金曜日は受けら
れます。フランス語はだいたいいつでも。離れすぎててちょっ
と勉強しないと思ったりしますが。

展示も年内あと数回あるかと思っています。音楽も模索してまた企
画したいです。面白い企画を持ち込んで貰ったりもします。

焙煎は日々探り探りですが、豆売りについて、豆をご購入いた
だきますと、好きなコーヒーをお飲みいただけます。

あと遂に、電子マネーに対応しました。

たまにブログを更新することもあるので、よかつたら店の情報
をチェックしてみてください。

odaibrucke.org

「こんな顔」 in 小台

玉坂めぐる

小台橋には「アンパンマンもどき」
がいます。真顔でいます。



「アンパンマンエラー」もいます。
チカラが出ない感じです。



小台マガジン 17

坂本 優子（ペインター）

 @Uco78T

DJ 半額（ひみつ）

 @oginuma_x

おぎぬま X（会社員）

 konnakao.blog96.fc2.com

玉坂めぐる（「顔に見えるもの」の収集家）



栗原 論（店主のパイセン）

 kongaritousuto.tumblr.com

こんがりトースト（フリーター）

斉藤 友秋（作曲家）

 @saitosaitama

鈴木 良典（さまよう）

 @TULTUUGA

鈴木 レゼ はるひ（小学生）

中村 安伸（俳人）

 @yasnakam

中村 優子（会社員）

 @nakanakanakamu

長谷川 至洋（公務員）

 @hasesh

最上 和子（舞踏家）

 @walhallahlaw

モリナヲ弥（サンズイ舎）

 @_sanzui

山下 哲史（ターンテーブル奏者）

 @satoshiimoshita

様 式美（AI モンスター）

 @yoshikibi

杉浦 俊介（店主）

 @hashi_to_coffee



小台マガジン vol.17

2017 年 8 月
編集・印刷 ブリュッケ

BRÜCKE

odaibrücke.org